

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング(装飾)など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 ジュエリー	・ジュエリー・アクセサリー商品の基礎知識の習得。 ・ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗(高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗)における市場調査による商品研究。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技法の習得。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きプレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショップリサーチレポート等。	1・通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 シューズ	・基本デザイン(モカシン・パンプス)の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・通年	120	4		○		○		○		
○			自由研究 I	各課題や個人の自由実習。通常授業以外の制作をすることによる、各個人のレベルアップ。 ・ブランド研究(帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究) ・文化祭バザー作品のグループ制作 ・各種コンテストの参加 ・美術館、博物館等の見学	1・通年	60	2			○	○	○	○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ハンディクラフトⅠ	各種のクラフトテクニックを、エンプロイダリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。 特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。 併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。 それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2			○	○		○		○
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。 一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2		○		○		○		
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○		△	○		○		
○			デッサンⅠ	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	60	2				○	○		○	
○			ファッションデザイン画	・衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する ・衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる ・ファッショングッズを引き立てる着装画としての表現力	1・通年	60	2				○	○		○	
○			グラフィックワークⅠ	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1				○	○		○	

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。	1・前期	60	2			○	○		○		
○			服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			素材論	繊維素材(各種繊維・糸・布地・染色加工)の種類・性質について基礎的な知識を習得させる。さらに繊維素材製品の展開などにも関連させ知識を深めることを教育の目標とする。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○		○		
○			クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○		○		
○			特別講義Ⅰ	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	60	2	○			○		○		

○			校外研修 I	都会生活から離れた「自然の中」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力や協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深めることを目的とする。規律を強調がいかに人間関係に潤いを与え、楽しい物であるかを知り、一人一人が規律正しい健康的な団体生活を送れるよう心がけ、相互理解を深める。	1・前期	30	1				○		○	○			
合計			18科目		1140単位時間(38単位)									
卒業要件及び履修方法											授業期間等						
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること											1学年の学期区分			前期・後期			
											1学期の授業期間			15週			
(留意事項)																	
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。																	
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。																	
(別紙様式4)											(1/5)						
授業科目等の概要																	
(ファッション工芸専門課程バッグデザイン科) 2020年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			バッグデザイン I	・マチの種類を理解した上でのバッグのデザイン、そのデザインに合わせた立体の作り方、型紙の作り方、縫製方法を習得する。	2・通年	120	4			○	○		○				
○			バッグパターンメイキング I	・実務に必要な図面の描き方を習得する。 ・皮革用ミシン、革漉き機の操作方法を習得する。 1. 横まち基本型 2. 通しまち基本型 3. ソフト応用デザイン 4. スワローまち基本型 5. スワローまち応用デザイン	2・通年	120	4			○	○		○				
○			バッグ制作実技 I A	6. 外縫い横まち基本型 7. 外縫い帯まち基本型 8. " 応用デザイン 9. 小判底基本型 10. 図面	2・前期	90	3			○	○		○				
○			バッグ制作実技 I B		2・後期	120	4			○	○		○				

○			バッグデザイン論	バッグのデザインの方法、考え方を講義、演習を通して学ぶ。 仕事としての商品企画(デザイナーの仕事)について理解し、商品企画力を身に付ける。	2・通年	30	1	○			○							
○			バッグ素材論	バッグに使用する素材の知識を深める。 各素材の専門企業による特別講義により、より専門的な知識を習得する。	2・通年	30	1	○			○							
○			バッグハンドワーク	前期 手縫いの基本をマスターさせ、手縫いによる小物(財布、ペン立て等)ができるほどのレベルにもっていく。 後期 手縫いの技法のいくつかを使用し、ビジネスバッグ製作ができるほどのレベルにもっていく。	2・通年	90	3				○	○						
○			自由研究Ⅱ	各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する。 ◆各種コンテスト YKKファスニングアワード／台東デザインアワード／TLF革のデザイン展／文化服装学院ファッションコンテスト 服飾工芸部門／その他関連コンテスト ◆美術館、博物館等の見学 ◆個人テーマによる作品制作 ◆コラボレーション企画への参加	2・通年	60	2				○	○	○	○				

(別紙様式4)

(2/5)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程バッグデザイン科) 2020年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ハンディクラフトⅡ	ハンディクラフトⅠで学習したクラフトテクニックの応用。エンブroidアリー・布の加工の他にレースのテクニックも含め より高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。 バッグなどの皮革製品への応用を念頭に、よりクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・前期	30	1	△		○	○			○		○
○			デッサンⅡ	現能力の向上を目的とする。 また平面にとどまらない各自の、多彩な表現に結びつくような方向性も考慮する。	2・前期	30	1			○	○			○		
○			バッグデザイン画Ⅰ	バッグの基本型から段階を追い、バッグの構造を理解しながら複雑なデザイン、形状まで描けるようになることを目標とるまた、水彩、パステル、マーカーによる材質表現テクニックを習得する。	2・通年	60	2			○	○			○		

○			造形デザイン	ファッション工芸科の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となります。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的製作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とします。	2・通年	60	2				○	○		○			
○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワークⅠ修了者を対象として、Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着色ができることを目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・通年	60	2	○				○		○			
○			ファッションマーケティング	・マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 ・マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・通年	60	2	○				○		○			
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	2・後期	30	1	○				○		○			

(別紙様式4)

(3/5)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程バッグデザイン科) 2020年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			キャリア開発 (コミュニケーション)	将来を考えるテーマについて、「考える」「聴く」「書く」「話す」「伝える」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを、講義+実習を通して身につけさせる。	2・前期	30	1			○	○			○		
○			キャリア開発 (就職対策)	学生が志望する就職先に内定するために必要な「就職力」を講義+実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1			○	○			○		
○			特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	60	2	○		△	○				○	

○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的・文化的にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。 ○企業、工場見学 ・豊岡かばん企業 1社、ファスナー・金具企業 1社 ・兵庫県姫路市 タンナー 2社 ・シューズメーカー ・ビーズ工場 ・帽子企業 ○グループ研修 ・神戸市内 ○レポート提出	2・前期	30	1	○					○	○	
		○	インターンシップa	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実務を学ぶ。 また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上をはかる。	2・後期	30	1						○	○	○

合計			19科目		1140単位時間(38単位)	
----	--	--	------	--	-----------	--	-------	--

(別紙様式4)

(4/5)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程バッグデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			バッグデザインⅡ	2年次までの基礎知識を基に、さらに高度なデザイン力、パターンメイキング力、縫製テクニックの習得を目指し、企業で即戦力として活躍できるスキルを身につけることを目標とする。テーマごとに基本作品(全員同じ形)を制作し、新しい知識・技術の習得を行い、それを活かしながら応用、発展させた作品制作を行う。また、素材についても様々な方法で加工を施すなど、オリジナリティの追及を目指していく。(基本作品4点、応用作品9~10点) 現役職人の外部講師による専門知識・技術の習得も行う。(特別講義:ブリーフケース)	3・通年	180	6			○	○			○	
○			バッグパターンメイキングⅡ		3・通年	180	6			○	○			○	
○			バッグ制作実技ⅡA		3・前期	120	4			○	○			○	
○			バッグ制作実技ⅡB		3・後期	150	5			○	○			○	

○			革小物制作 実技	革小物(財布、カードケース等)の基礎知識と、 専門的な縫製テクニックの習得を目標とする。 小物制作特有の革漉きや縫製準備、ミシン縫製 など制作実習を通して学ぶ。また、就職先業界 の製造現場で使用している裁断機(クリッカー) を使用した裁断実習を行い、機械の使用方法を 身に付ける。	3 ・ 前期	30	1				○	○		○			
○			バッグマー チャンダイ ジング	1. 実際のマーチャンドライザーの業務内容を通し て、マーチャンドライジング計画の重要性と理解を 深める。 2. 各自でマップや計画書を作成し発表すること で、実践力とプレゼンテーション力を養う。	3 ・ 通年	60	2	○				○		○			
○			バッグデザ イン画Ⅱ	バッグデザインワークのうえで即戦力として使え るデザイン画の習得。就職活動に活用できる ポートフォリオ(作品集)作成、及び創作デザイ ンの企画構成力を目指して。	3 ・ 前期	30	1				○	○		○			
○			デザイ ン ディレク ション	デザインの発想と展開、作品の効果的な演出ま で一貫した流れのなかで各個人の価値観を浮き 彫りにしてゆく授業。	3 ・ 通年	60	2				○	○		○			
○			コンピュ ータワーク	1. Wordの操作方法を習得し、ビジネス文書の 作成力を身につける。 2. Excelの操作方法を習得し、関数や計算式を 利用して効率よくデータを分析する力を身につけ る。	3 ・ 後期	30	1				○	○		○			

(別紙様式4)

(5/5)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程バッグデザイン科) 2021年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			ビジュアル プレゼン テーション	・VPの社会的な役割を理解し、コンセプトやイ メージに基づいたプランニング～実行までの作 業を行う。 ・「作品」を「商品」として捉えることでよりビジネス に近い提案方法を実践する。 ・ピンワークのテクニックを学びVPや作品作りに 活かす。	3 ・ 前期	30	1	○			○		○			
○			染色・プリ ント技法	バック・シューズ制作の新たな発想の手がかりと なるよう、何種類かの染色・加工法を抜粋し指導 する。 その基本的な知識と技法を実習をとおして習得 させる。	3 ・ 前期	30	1				○	○			○	

		○ 英会話	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増やすこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級(中位)から中級まで。	3・通年	60	2				○	○		○				
○		特別講義Ⅲ	ファッション全般のトレンド情報やプロダクトデザイン、またグッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事、特殊材料やその活用方法などを学び、多方面にわたる講師による講義や実習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	60	2	○				○						○
		○ インターンシップ ^b (自由選択)	就業体験を通して、実践の現場から業界の仕事内容を学び、働くことの厳しさや社会人としてのマナーを身につける。また、希望する職種と合致しているのかを見極め、就職に対する意識の向上をはかる。	3・後期	30	1				○			○				○
○		卒業研究・創作	卒業制作発表展示に向けて表現力、創作力を高め、また企画、運営する能力を養うことを目標とする。 3年間の集大成として、各自が研究テーマを設定し、4～5点のシリーズで作品をデザインし創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学び、帽子・ジュエリーデザイン科、シューズデザイン科と共に展示発表する。	3・後期	120	4				○	○						○
合計				13科目	1080単位時間(36単位)												
合計				50科目	3360単位時間(112単位)												
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること										1学年の学期区分				前期・後期			
										1学期の授業期間				15週			
(留意事項)																	
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。																	
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について																	